

クラスワイド(学級単位)のポジティブ行動支援 実践研究報告

小学校中学年の児童に、友だちのよ
いところを見つけるスキルを教える

教員の考え

「子ども同士の関わりが少なく、
友だち関係も偏りがち」

「教員の声かけによって行動することが
多い」



アドバイザーからの助言

- ・「指示を聞いて動く」ことは、一定のレベルに達しています。
- ・高学年に向けて自主性を育てる視点で取り組むことが大切です。
- ・担任の先生の褒め方やフィードバックを工夫することから始めましょう。



指導目標の見直し

お互いを認め合ったり, ほめ合ったりする,
あたたかい言葉かけを増やすために・・・

【指導目標】

「友だちのよい発言, よい行動を
見つけることができる」

指導1-1: 友達のよいところをポストに投票

児童が教室内にポストを作り，友だちのよい発言やよい行動を書いて，投票した。

【介入1】

①帰りの会でフィードバックする

よかった発言や行動のカードを読み上げる等，意図的な紹介を行う

②ピックアップしたカードを掲示する

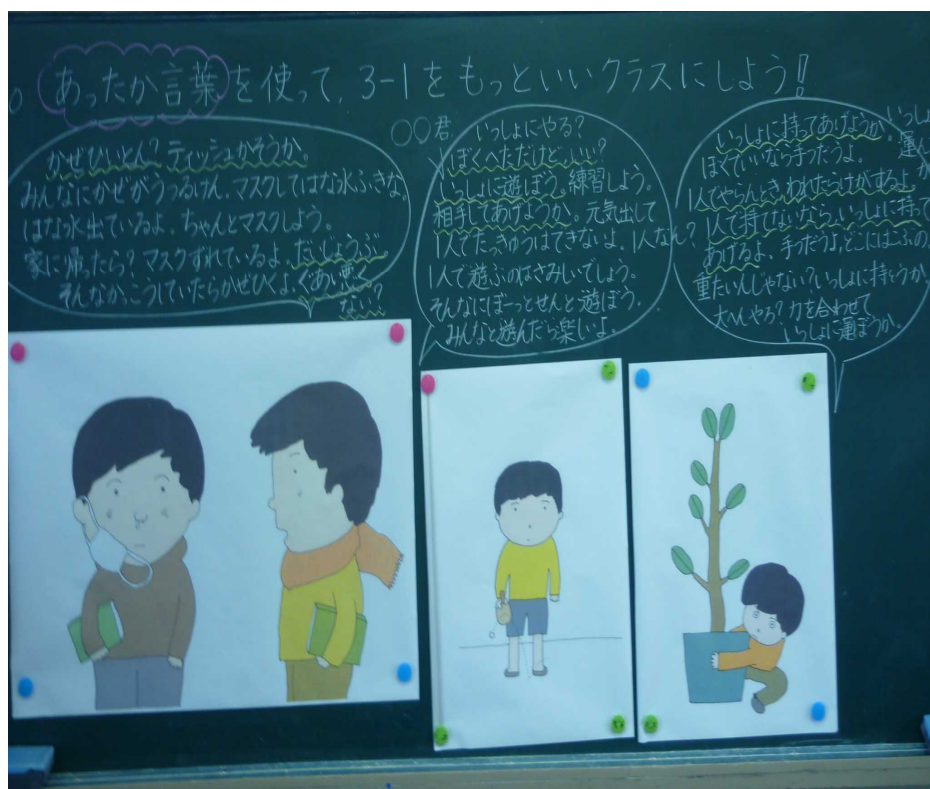
【介入2】

カードを書く時間を設定する

指導1-2: よい行動に気づくためのSSTを実施

場面ごとのよい行動を考える

～『ともだち』谷川俊太郎のイラストを活用して～

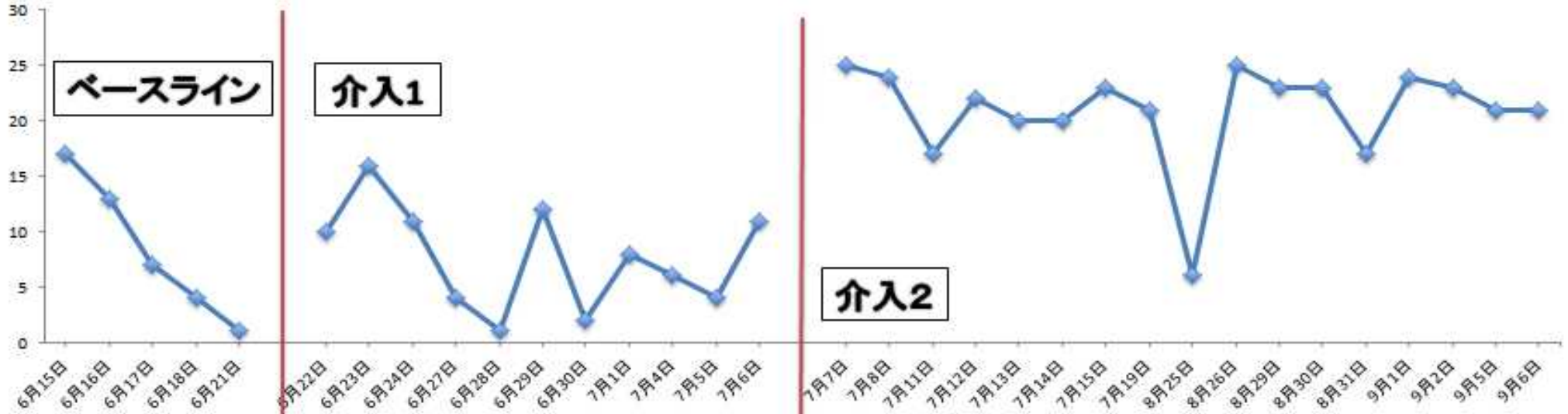


よい行動に気づくためのSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、「よい発言やよい行動」の学習を行う。

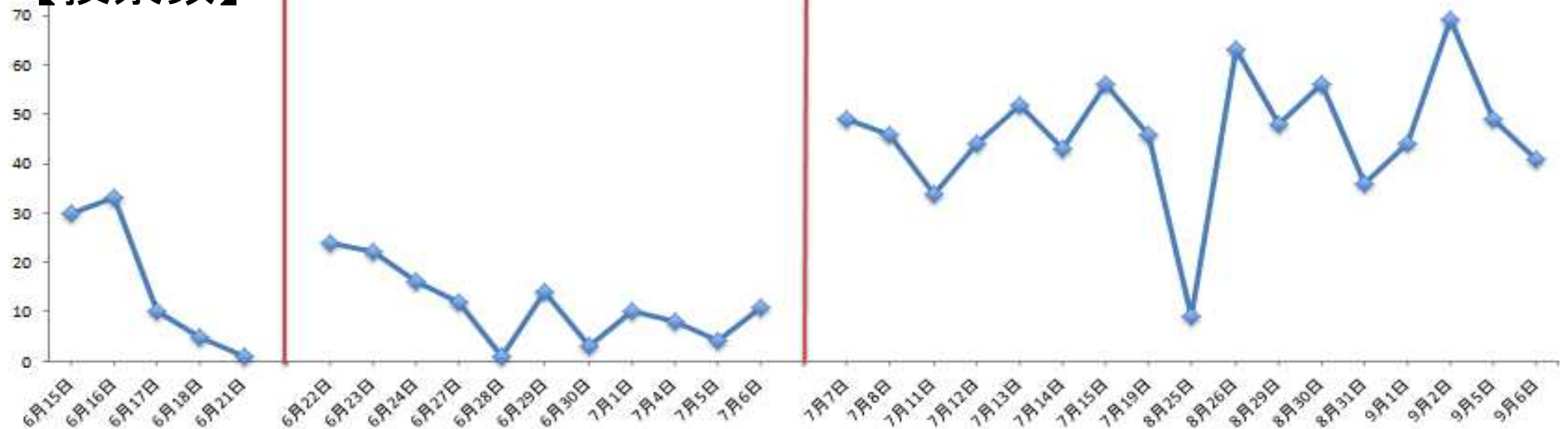
指導1の成果

- 児童が助け合っている場面が増え、自ら活動するようになりました。
- 友だちへのサポートの仕方が上手になりました。

【投票した人数】



【投票数】



児童自己評定尺度

- ・「児童自己評定尺度」を活用して、自己肯定感の変化を調べた。
- ・取り組み前後に記録をとる。

「児童自己評定尺度」について

『学校でできる認知行動療法 子どもの抑うつ予防プログラム
【小学校編】』佐藤正二，佐藤容子，石川信一著 日本評論社
の中から活用

子どもが読み取れるようにふりがなをふったものを準備して実施
(5項目で構成された質問に児童が答える形)

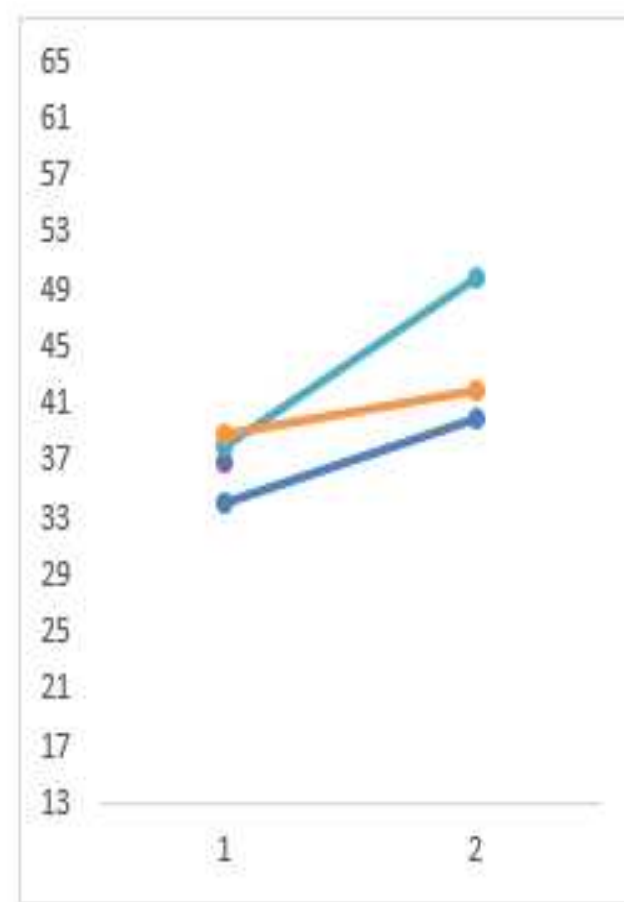
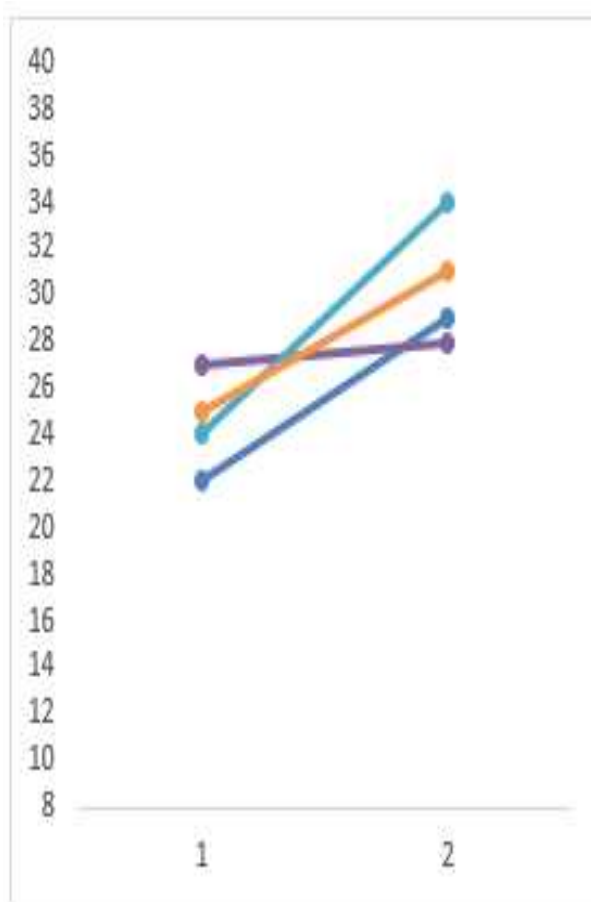
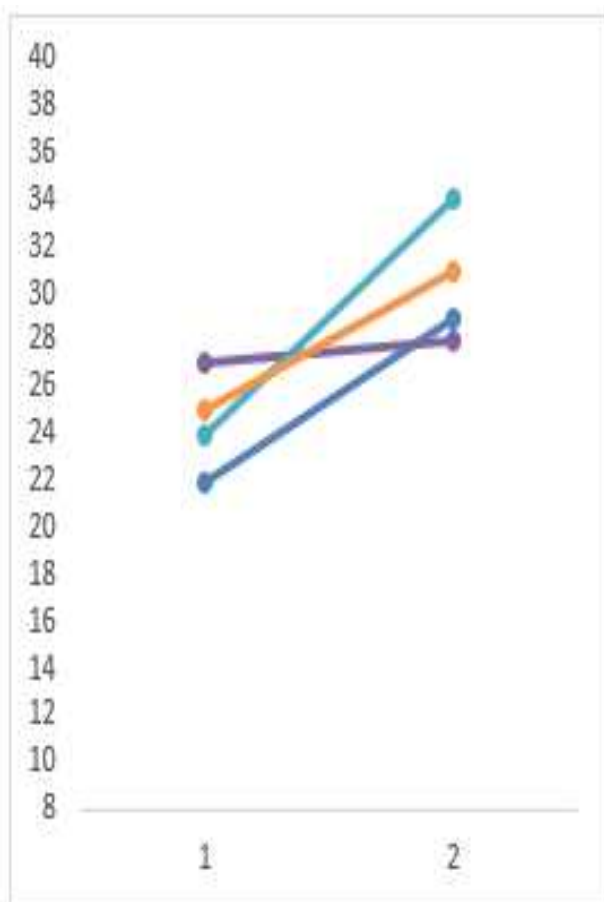
指導の成果

「児童自己評定尺度」の活用① ～低得点者の得点の変化～

【仲間への誘い方・
仲間への入り方】

【やさしい言葉かけ】

【あいてを思いやる】



縦軸：得点，横軸：1（取り組み前6/28） 2（取り組み後11/1）

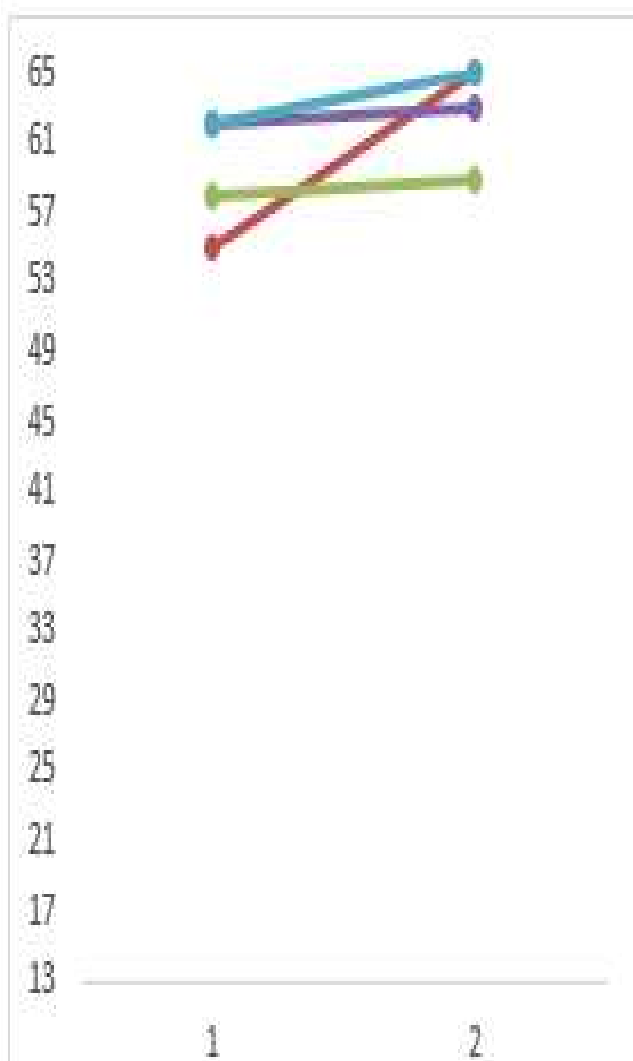
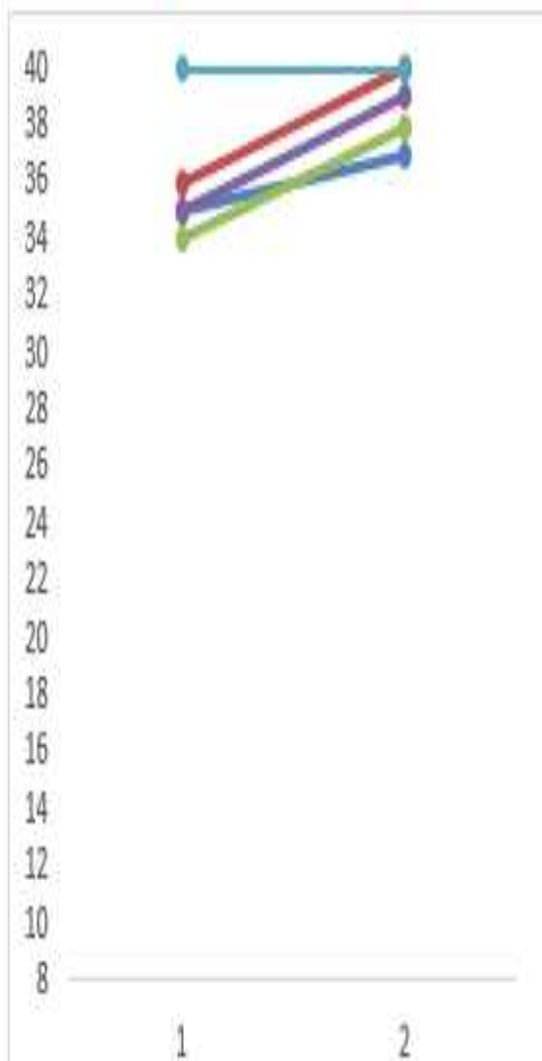
3項目において得点の維持・上昇が見られました。

指導の成果

「児童自己評価尺度」の活用② ～高得点者の得点の変化～

【やさしい言葉かけ】

【あいてを思いやる】



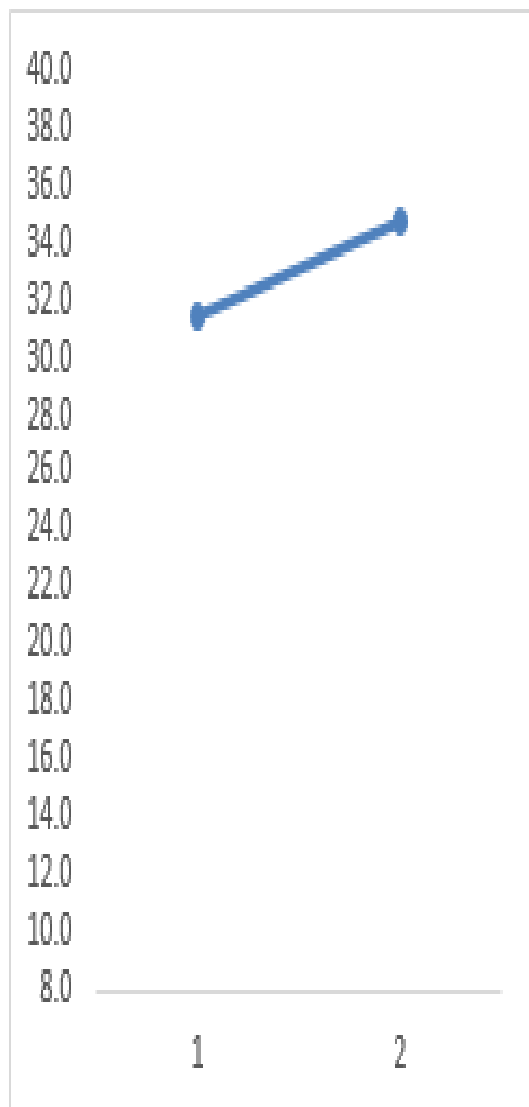
2項目において
得点の維持・
上昇が見られました。

縦軸：得点，横軸：1（取り組み前6/28） 2（取り組み後11/1）

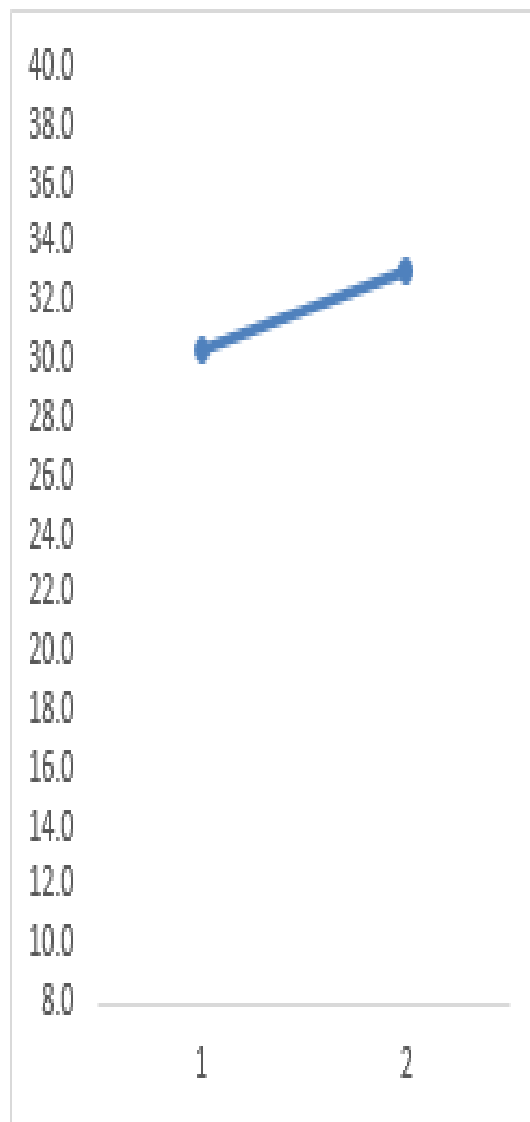
指導の成果

「児童自己評価尺度」の活用③ ～クラスの得点の変化～

【仲間への誘い方・
仲間への入り方】



【やさしい言葉かけ】



2項目において
はっきりした得点の
上昇が見られました。

縦軸：得点
横軸：1（取り組み前6/28）
2（取り組み後11/1）

ここが成功のポイント



○「ポスト投票」のしかけによって、「よい発言・行動」に教員と児童も注目した。

○助け合う児童を育てることができた。

○同時進行していた学校規模のポジティブ行動支援の取り組みによって般化場面が増え、さらに行動の定着が図られた。